

令和2年10月15日

生徒のみなさんへ

京都府立西舞鶴高等学校  
校長 松下 茂男

## 開校記念日について

西舞鶴高校は、昭和23年10月15日に新制京都府立高等学校として発足しました。よって、本校ではこの日を「開校記念日」として位置付けています。本校が新制「京都府立西舞鶴高等学校」として開校してから、本日で72年が経過しました。

本校の沿革をひもとけば、明治40年4月に開校した「京都府加佐郡立高等女学校」（その後「京都府立舞鶴高等女学校」「京都府立舞鶴第一高等女学校」「京都府立西舞鶴女子高等学校」と変遷）と大正11年4月に開校した「京都府立舞鶴中学校」（その後「京都府立舞鶴第一中学校」「京都府立西舞鶴高等学校」と変遷）が昭和23年10月に統合して、新制「京都府立西舞鶴高等学校」として誕生しました。つまり、113年という長い歴史と伝統をもつ学校であることが分かります。

新制高等学校開校当時は、通常制（全日制）・定時制・通信教育の各課程があり、通常制課程と定時制課程に普通科と商業科が、通信教育の課程に普通科が設置されており、昭和32年4月から平成4年3月まで全日制課程に家政科が設置されていました。その後、平成11年3月に定時制課程が閉制、平成18年4月には理数探究科が設置される一方、平成20年3月には最後の商業科の卒業生を送り出すなど、幾多の変遷を経て現在に至っています。

学校創立以来、明治、大正、昭和、平成、令和と続いてきた113年の歴史の中で、本校から巣立ち、社会の様々な分野において数多くの先輩たちが活躍されてきたことは皆さんもよく知っていることと思います。その数は、実に36,000名を越えています。

開校記念日にあたり、100年を超える輝かしい歴史と伝統を築かれた先輩方が抱かれた夢や理想に思いを巡らしてください。また、保護者や地域の方々が本校に寄せておられる大きな期待や信頼に心を傾けてください。そして、本校の未来に思いを馳せ、将来のあるべき姿について、考えたり話し合ったりする機会にもしてください。

本校の発展を願うとともに、そのために在校生として今自分が何をなすべきか、日頃の学校生活を振り返り、そしてまた自らの将来を考える、そういう意義ある日にしてくれることを期待し、皆さんと一緒に西舞鶴高等学校の「開校記念日」を心から祝福したいと思います。

## 校内にある記念碑・記念植樹等を紹介します。

### 《記念碑等》

#### ・校訓碑（玄関前）

平成4年6月に校訓「究理・尚志・敬人」が制定され、それを記念して平成5年5月建立（舞鶴中学校第11回生、元双鶴同窓会長 故 多田 卓夫氏揮毫）

#### ・舞中校歌碑（体育館前）

昭和57年5月建立（舞鶴中学校第7回生、元京都府知事・法務大臣 林田 悠紀夫氏揮毫）

#### ・舞女校歌碑（体育館前）

昭和63年4月建立（舞鶴高等女学校14回生、舞女部会長 原田 芳子氏揮毫）

#### ・西舞鶴高校歌碑（玄関前）

創立100周年記念行事として平成19年10月建立（舞鶴中学校第5回生、元京都大学総長 岡本 道雄氏揮毫）

#### ・碑文「あ、舞中」（体育館前）

昭和51年10月建立（舞鶴中学校第5回生、元京都大学総長 岡本 道雄氏揮毫）

#### ・大江季雄選手像（体育館前）

昭和57年5月建立

大江選手は舞鶴中学校第6回生で、棒高跳選手として研鑽を積み、第11回ベルリンオリンピックに出場し、同僚の西田選手と2・3位を争うこととなったが、世界の舞台で日本人同士が争うのではなく、お互いの名誉として、銀・銅メダルを「友情のメダル」として2人で分かち合い、世界の人々を感動させた。在校生もまた「努力と友情の人たらん」との願いをこめて、舞中創立60周年を記念して同窓会より寄贈された。

### 《記念植樹等》

#### ・玄関前

舞中創立記念「翔鶴之松」

舞中第1回卒業生卒業50周年記念「帰一之松」

舞中第8回卒業生卒業40周年記念「八交の桜」

舞中第10回卒業生一穹会卒業30周年記念植樹

#### ・中庭

舞女創立70周年記念「舞女の梅」

舞中第7回生卒業50周年記念植樹

舞中第22回生双穹会卒業30周年記念植樹

昭和55、56、57、58、59年度卒業生卒業記念庭園「浄姿苑」

#### ・体育館前

昭和43年卒業記念植樹「記念の並木」

昭和48年卒業記念植樹

昭和53年卒業記念「石庭」

### 《校章の由来》

旧舞鶴中学校の校章をいかし、鶴のつばさを3つにして、舞鶴中学校と舞鶴第一高等女学校の統合を意味し、また高校の「高」の形を表現している。

（作者は統合当時に図画担当者であった 故 森本 元治氏）

